研究会のあゆみ（2013 年 8 月 9 日～2014 年 2 月 28 日）

第 172 回：8 月 9 日（金）
発表者 1：近藤佳那子（総合科学研究科博士課程前期）
「申京淑『離れ部屋』の表象の暴力性」
発表者 2：廣瀬光沙（総合科学研究科博士課程前期）
「台湾語歌謡と鳳飛飛」
発表者 3：渕上千香子（教育学研究科博士課程前期）
「2000 年代後半の崎山多美作品における「他者」内部の「交感」」
司会：三木直大（総合科学研究科）

第 173 回：10 月 17 日（木）
発表者： 杉江あい（名古屋大学環境科学研究科博士課程後期）
「バングラデシュ農村における「物乞い」の研究―中間集団に着目して」
司会：外川昌彦（国際協力研究科）

第 174 回：11 月 12 日（火）
発表者：高井龍 （広島大学・特別研究員）
「敦煌における写本の再利用に関する一考察――BD6173 を中心に――」
司会：丸田孝志（総合科学研究科）

第 175 回：11 月 20 日（水）
発表者 1：別所裕介（国際協力研究科）
「“環境のために”移住する、ということ――三江源生態移民における都市生活と村の暮らしの両立を狙う生計戦略をめぐって――」
発表者 2：中村友香（総合科学研究科博士課程後期）
「「楊宝」条から見る二十巻本『搜神記』の編輯」
司会：丸田孝志（総合科学研究科）

『アジア社会文化研究』投稿規程

1．『アジア社会文化研究』の目的

『アジア社会文化研究』はアジア社会文化研究会において発表・議論された成果をもとに編集される論文集であり、2000 年 3 月の創刊以来、これまで年 1 回のペースで刊行されている。同研究会は、アジア研究にかかわる者が専門分野の枠をこえて学際的に討論し研究の幅を広げることを目的に、広島大学大学院総合科学研究科に所属する教員および大学院生を中心に設立・運営されている。

2．投稿資格

原則として本研究会の目的に適い、本研究会にて発表した者とする。なお編集委員会（ならびに院生の場合には当該指導教官）が質的に掲載に十分値すると認めた論文の投稿申し込みを受理し、掲載の可否については厳正な査読制をしくこととする。

3．論文集完成までの過程

(1) 投稿希望者は 8 月 31 日までに所定の用紙（「投稿申込書」）で申し込むこと（電子メールによる添付書式も可）。

(2) 投稿希望論文の提出期限は 11 月 1 日までとする。

(3) 投稿希望者は本年度の研究会において、投稿論文の主題に沿った発表を少なくとも一度以上行わなければならない。ただし海外居住者や遠隔地に居住する者、また長期に渡り海外での調査活動に従事している場合などは、編集委員会での審議を経たのちに、レジュメ等の提出で発表に代える。

(4) 発表と投稿論文の提出を終えた者から随時、査読制による審査を受け、そこでの結果により、掲載の可否が決定される。

(5) その後、編集作業（投稿論文の加筆・修正を要請することがある）を経て、翌年の 3 月末日に刊行する。

4．執筆要項

(1) 掲載論文の種類および分量

①論説：16000～20000 字程度（400 字詰め原稿用紙で 40 枚～50 枚程度）

②研究ノート：12000 字程度（同 30 枚程度）

③研究動向・調査報告・資料紹介等：8000 字程度（同 20 枚程度）

④書評：4000 字程度（同 10 枚程度）

(2) 書式等

原則として「ワード」横書き（34 字×30 行）で、本文を記述する言語は日本語に限る。なお、引用など必要に応じた他言語の使用は認める。なお、規定の書式から著しく外れたものは投稿を受理できない場合がある。

(3) 原稿の提出方法と提出先

投稿希望者は上記①～④に該当する原稿を「ワード」またはテキストファイルで作成し、編集委員会宛に以下のものを提出すること。

(a) 電子メールの添付ファイルもしくは CD-R など

(b) 印刷したもの 1 部（直接・郵送いずれも可）

なお投稿申し込みが受理された場合、投稿者は編集委員会の指示に従うものとする。

5．書式の設定

(1) フォント・文字サイズなど

タイトル	MS ゴシック　フォントサイズ 11
章見出し	MS ゴシック
	1．2．3．…（全角，フォントサイズ 10）
節見出し	MS ゴシック
	(1) (2) …（半角，フォントサイズ 9）
本文	MS 明朝　フォントサイズ 9
数字・英文	章，節見出し以外は全て「Century」
脚注	文末脚注　脚註番号は「アラビア数字」で設定

参考文献	必要に応じて「脚注」の後に別途に掲載
連絡先	論稿末尾に執筆者の電子メールを記載（希望者のみ）

（2）ページ設定

「ワード」：ツールバーの「ファイル」→「ページ設定」にて設定

文字数と行数	余白	用紙サイズ
文字数　34 行数　30 フォント　MS 明朝 フォントサイズ　9 段数　1 横書き	上　30mm 下　30mm 外　20mm 内　25mm とじしろ　0 ヘッダー　15mm フッター　17.5mm 印刷の向き　袋とじ とじしろの位置　横	用紙サイズ　A4 印刷の向き　横

問い合わせ（編集委員会）

アジア社会文化研究会代表：三木直大（広島大学大学院総合科学研究科教授）
naomiki@hiroshima-u.ac.jp
アジア社会文化研究会：owner-asiasyabunken@freeml.com

『アジア社会文化研究』（第　号）投稿申込書

年　　月　　日

名 前	フリガナ
	日本語名
	英語名
所 属	
連 絡 先	住 所
	電 話
	E-mail

1．投稿を希望する原稿の種別（○をつけて下さい）

論説		研究ノート		研究動向		資料紹介		書評	

2．原稿題目（仮題目でも可）

日本語（主題と副題）
英語（主題のみ）

3．原稿要旨（400～600 字程度で記入して下さい）

『アジア社会文化研究』編集委員会

※受領者	※受領日

※　投稿申し込みの際は上記の「投稿申込書」を使用して下さい。なお電子メールにて申し込みを希望される方には、添付用書式（ファイル）をお送りしますので、編集委員会までご連絡下さい。

執筆者紹介（掲載順）

吉村慎太郎　広島大学大学院総合科学研究科教授
荒見泰史　　広島大学大学院総合科学研究科教授
丸田孝志　　広島大学大学院総合科学研究科准教授
別所裕介　　広島大学大学院国際協力研究科助教
越智郁乃　　福井大学産学官連携本部　博士研究員
中村友香　　広島大学大学院博士課程後期
水羽信男　　広島大学大学院総合科学研究科教授

編集後記

『アジア社会文化研究』第 15 号をお届け致します。本誌の刊行が開始された 2000 年は、朝鮮半島で南北首脳会談が開催された年でした。1998 年の日韓共同宣言に署名した両国首脳、「文明間の対話」を提起したイランのハータミー大統領も在任中であり、新世紀を迎える世界には、対立を乗り越えて和解を求める雰囲気が広がっていたように感じます。

翌 2001 年、国連「文明間の対話年」に発生したアメリカ同時多発テロ事件からアフガニスタン・イラク戦争へ至る過程は、このような希望を大きく後退させましたが、15 年を経た今日、東アジアにおいても近隣諸国間の緊張が高まり、日本にもこれほど非寛容な「ナショナリズム」が吹き荒れる惨憺たる状況になるとは、当時は想像できませんでした。グローバル化の進展が却ってナショナルな感情を掻き立てるという構造は、よく指摘されることで、100 数十年前に国民国家のモジュールとして移植され始めたこのような感情が、容赦ないグローバル化に対して各地で過激に反応しているという側面もあるのでしょう。このようなナショナルな感情は、自分達だけの正義を語る非寛容な言説を生み出しますが、これが世界共通のモジュールであることを理解すれば、互いの感情を尊重しつつ、相互理解を培う基盤に転化できるのかもしれないとも考えます。距離が近くなるほど、日常に浸透する様々な違和感、不信感を乗り越えて、相互の理解を切り開くためには、多様な専門性をもって、多様なアジアの多様な社会、時代、文化を映し出す本研究会のような試みが、今後より重要な意味を持ってくるものと思います。

慣れない取りまとめ役で、方々にご迷惑をおかけ致したことと思いますが、斬新な論考を多数寄稿頂き、刊行に漕ぎ着けることができました。これも皆様の多大なご尽力によるものです。改めてお礼申し上げます。

本年度も研究会では、院生諸賢を中心に意欲的な報告を多数聴くことができましたが、より多くの院生の皆さんが、互いを高め合う場として研究会に積極的に参加し、その成果が本誌において更に活発に披露されるよう期待致します。（丸田）

編集委員：丸田孝志（編集委員長）
中村友香
荒見泰史　関恒樹　高谷紀夫　崔真碩　外川昌彦　長坂格
別所裕介　三木直大　水羽信男　吉村慎太郎

アジア社会文化研究　第15号

2014年３月28日

アジア社会文化研究会

広島大学大学院総合科学研究科内
Ｅメールアドレス：asiasyabunken-owner@yahoogroups.jp
HP アドレス：http://ajiashakaibunka.blog42.fc2.com/
〒739-8521　広島県東広島市鏡山１丁目７番１号

編集委員会連絡先
広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部　三木直大
電話：082-422-6356（三木研究室）
Ｅメールアドレス：naomiki@hiroshima-u.ac.jp
〒739-8521　広島県東広島市鏡山１丁目７番１号